

■ □ -----

このメールは RITE メールマガジン配信サービスにご登録いただいた方および、RITE 主催のシンポジウムにお申込みいただいた皆様の中で「メールマガジンの送付を希望する」とご回答いただいた方へお送りしています。

※配信の停止や送付先の変更方法は末尾をご覧ください。

■ □ コラム □ ■

RITE 研究企画グループの青木です。

今回のコラムにおいても、CO₂ 回収・貯留（CCS）の ISO 化について、前回の高木の報告に引き続き情報を提供したいと思います。

前回のコラムにおいて、ISO/TC265 専門委員会に5つのワーキンググループが設置されていて、それぞれのワーキンググループにおいてコンビーナ（議長）が決定され、回収と貯留に関しては日本がコンビーナを務める（貯留はカナダと共同）ことをお知らせしました。回収と貯留以外の他の3つのワーキンググループに関してですが、輸送はドイツ、定量化と検証は中国とフランスが共同、横断的事項はフランスと中国が共同でコンビーナを務めることになっています。

一方、ISO/TC265 専門委員会の構成メンバーですが、専門委員会内の事案に対して投票の権利を持ち、業務に積極的に参加する P-member として16カ国、文書の配布を受けコメントの提出と出席の権利を持つ O-member が10カ国、専門委員会が取り扱う課題に対して幅広く意見をもらうための Liaison member として6つの国際機関が参加しています。

これらの国、機関から5つのワーキンググループへエキスパート（専門家）が参加して、各分野における規格化の議論を進めていくこととなります。現在これらのエキスパートの募集が行われている最中です。国内においては、ISO/TC265 国内審議委員会及びその下部組織である国内各ワーキンググループが中心となってエキスパートの選定を行っています。

またエキスパートの募集と並行し、これから進めていく ISO 規格開発の内容に関して各ワーキンググループ別に検討が行われています。5つのワーキンググループのそれぞれの事情、これまでの経緯等の違いがあり、進め方に違いが出てきていますので、それぞれのワーキンググループ別の状況について少しお話しします。

まずは、6月に5つのワーキンググループの中で先頭を切って会合を開催する輸送についてです。輸送ワーキンググループにおいては、CO₂ 発生源において回収した CO₂ を貯留する場所までどうやって運んでいくかに関して議論することとなります。これまでの議論では、大きく分けてパイプラインを使う方法と船／車を使う方法の2つがテーマにあげられ

ています。6月の会合において、各国のエキスパートからの提案を受けて、今後規格化していく内容、規格化の進め方、スケジュール等を議論し、ワーキンググループとしての方向づけをしていくものと予想されています。

北米、欧州等ではこれまでも実際に CO₂ のパイプライン輸送が行なわれていますので、輸送ワーキンググループとしてはパイプライン輸送を最初に議論していくものと思われる。一方日本においては、CO₂ を長い距離にわたってパイプラインで輸送することは行われておらず、現時点においては少し様子見といった状況です。

輸送ワーキンググループは、専門委員会の中では先頭バッターで会合を開催するので、他のワーキンググループからもその内容が注目されています。

次は貯留に関する現在の状況をお話します。

この分野は、大きく陸域での地下貯留と、海域における海の底の地下貯留に分けられます。陸域の貯留においては、なんといってもカナダが多くの実績をもっており、これらの経験から貯留に関してカナダとアメリカ共通の基準をつくっています。カナダはこの基準を ISO/TC265 における貯留の国際規格のベースにしようと提案の準備を行っています。ベースとなるドキュメントがすでに存在しているので、比較的早いスピードで ISO 規格化の議論が進んでいく可能性があります。

一方海域の貯留においては、ノルウェーが北海において多くの実績をもってしています。また日本においては、陸域よりも陸に近い海域での地下貯留が有望視されています。ノルウェーの場合は陸から遠い距離にある場所への貯留、日本は比較的陸に近い距離にある場所への貯留と、同じ海域の貯留でも少し事情が違ってきます。

日本はこの貯留分野でカナダと共同でコンビーナを務めて議論を先導していくことになります。陸域の実力者カナダと海域の実力者ノルウェーの間に日本が立ち、ある意味両者の調整役になってワーキンググループをひっぱっていくことになります。カナダと日本の間は、両国から出ている二人のコンビーナを通しての協力体制作り、ノルウェーと日本の間は昨年からの両国の関係者間で何回か会合をもって体制作りを行ってきており、準備は整いつつあります。今後この分野での日本の貢献に期待したいところです。

また、日本がコンビーナを務め、規格化へ向けて議論を先導していく回収分野に関しても関係部門の協力をいただきながら準備を進めていますが、残りの定量化と検証及び横断的事項の2つのワーキンググループの状況と合わせて、別な機会にお話ししていきたいと考えています。

今後の活動にどうぞご期待ください。

■□最新情報□■

★GHGT-11 の開催結果を掲載しました★

2012年11月18日～22日に第11回温室効果ガス制御技術国際会議（GHGT-11）を開催しました。本会議はCCS分野における世界最大級の国際会議で、「プレナリーセッション（基調講演等の全体会合）」、「テクニカルセッション」及び「ソーシャルプログラム」の3部門から構成されました。

当機構のサイトではプレナリーセッションの講演要旨やスライドを中心に公開しております。またプレナリーセッションの講演録（和訳）も差し上げていますので、ご関心のある方はRITEウェブサイトよりお申込みください。

<http://www.rite.or.jp/news/events/2013/03/ghgt-11.html>

★研究員募集★

システム研究グループでは研究員を募集しています。

http://www.rite.or.jp/news/recruitments/system/post_2.html

★研究年報 RITE Today Vol.08 2013 を掲載しました★

読み易くデザインを一新しました。2012年の研究成果や外部発表一覧などを載せておりますので是非ご覧ください。

<http://www.rite.or.jp/results/today/>

★奈良北高等学校の校外学習を受け入れました★

理数科2年生40名を受け入れ、地球温暖化問題やRITEの取り組み、研究への思いを紹介しました。

http://www.rite.or.jp/news/others/2013/05/post_4.html

★第30回科学技術諮問委員会を開催しました★

RITEの研究開発状況について報告し、各委員の方々から頂いたご助言を、今後に役立てて参ります。

<http://www.rite.or.jp/about/committee/>

★ATC グリーンエコプラザの展示ブースをリニューアルしました★

GHGT-11の開催結果や、RITE刊行物を展示しております。

お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。

ATC グリーンエコプラザのページへ

<http://www.ecoplaza.gr.jp/corp/zone/corp/rite/rite.html>

■ □ウェブサイト更新情報 □ ■

【お知らせ】

2013/3/27 GHGT-11: 第 11 回温室効果ガス制御技術国際会議の開催結果を掲載

<http://www.rite.or.jp/news/events/2013/03/ghgt-11.html>

2013/5/28 研究年報 RITE Today Vol. 08 (2013 年) を掲載

<http://www.rite.or.jp/results/today/>

2013/5/29 奈良北高校の校外学習を受け入れました

http://www.rite.or.jp/news/others/2013/05/post_4.html

2013/5/29 第 30 回科学技術諮問委員会を開催

<http://www.rite.or.jp/about/committee/>

【温暖化対策のシナリオ策定（システム研究グループ）】

2013/4/22 研究員公募を掲載

<http://www.rite.or.jp/Japanese/lab0/sysken/system-job-opening.html>

【バイオリファイナリー技術（バイオ研究グループ）】

2013/5/8 新規論文の採択などを掲載

http://www.rite.or.jp/Japanese/lab0/biseibutsu/01/01_top.html

2013/5/27 新規論文の採択などを掲載

http://www.rite.or.jp/Japanese/lab0/biseibutsu/01/01_top.html

■ □新聞掲載情報 □ ■

2013/3/15 電気新聞 2 面

新・国内クレジット制度 準備委が実施要綱確認

2013/3/16 朝日新聞 8 面

かすむ脱原発論 エネルギー基本計画、議論再開

2013/3/18 フジサンケイビジネスアイ 18 面

【論風】地球環境産業技術研究機構理事長・茅陽一
温度上昇抑制の妥当性

2013/3/18 ガスエネルギー新聞
電力排出係数で議論、制度設計を検討開始 新クレジット制度

2013/3/18 電気新聞 1、3面
エネ基本計画改定に着手 総合部会初会合 年末に取りまとめ
総合エネ調総合部会 委員の発言要旨

2013/3/19 産経新聞 23面
見直される石炭火力発電（2-2） 供給安定的で安価 経済成長にも貢献

2013/3/20 SANKEI EXPRESS 19面
安価・安定供給 経済成長につながる 見直される石炭火力発電（3）
地球環境産業技術研究機構 主席研究員 秋元圭吾氏に聞く

2013/3/25 電気新聞 2面
需給検証小委が初会合 火力連続運転 懸念多く 定検や燃料費 見極め必要

2013/3/25 ガスエネルギー新聞
総合部会「需要面の視点が重要」—電力需給検証小委を設置

2013/3/27 電気新聞 22面
ウェブ 時評 「ゼロと1」をめぐる考察
山地 憲治 地球環境産業技術研究所長

2013/3/27 京都新聞 15面
上海の商工団体と懇談 京商役員、事業機会探る

2013/3/27 朝日新聞 29面
かずさアカデミアパークにベンチャー進出 /千葉県

2013/3/28 西日本新聞 28面
福岡県／再生エネ30年度43万キロワット
福岡市有識者会議提言 太陽光発電を拡大／福岡都市圏

2013/4/1 ガスエネルギー新聞

合同会議で検討開始、今後の温暖化対策計画 産構審・中環審

2013/4/5 電気新聞 2面

エネ政策の行方を展望 24、25日に原産年次大会

2013/4/9 化学工業日報 10面

”CO2回収・貯留”北海道で実証準備 来年度中に圧入井を完成 国内でのCCS普及占う

2013/4/11 日経産業新聞 2面

Eの新話 「気温上昇2度以内」に指摘 理想論より早期対策

2013/4/15 電気新聞 2面

[社告] セミナー募集概要 5月14日(火)再生可能エネの行方

2013/4/18 電気新聞 10面

ウェブ 時評 省エネルギーへの努力

茅陽一 地球環境産業技術研究機構理事長

2013/4/24 電気新聞 7面

4月23～25日は第46回原産年次大会 混迷の原子力政策を問う

2013/4/25 電気新聞 3面

原産大会セッション1 エネミックスを議論 UAE企業など講演 原子力の役割重視

2013/4/25 電気新聞 2、3面

シェールガス、リスク懸念 総合エネ調部会 上流多角化理解も
委員の発言要旨

2013/4/30 日刊工業新聞 11面

温暖化問題の「切り札」 CO2地中へ貯留 日本の貯留可能量 排出量の100年分

2013/5/16 電気新聞 3面

再生エネ普及 課題探る 電気新聞セミナー 山地氏ら動向解説

2013/5/16 電気新聞 12面
ウェブ 時評 交流電力の難しさ
山地 憲治 地球環境産業技術研究所長

2013/5/20 電気新聞 9面
9月「エネ検」初の筆記試験 エネ学会 資源学会 東京・大阪2会場で

2013/5/20 石油通信
日協、6月11日創立50周年記念式典

2013/5/22 電気新聞 2、3面
電力改革、利点強調に異論 総合エネ調部会 流通部門巡り議論
委員の発言要旨

●メールマガジンの配信先変更および配信停止を希望される場合は、
「宛先変更」もしくは「配信停止」と記載し、下記までご連絡ください。
pub_rite@rite.or.jp

●本メールマガジンの記事内容へのお問い合わせ、ご意見は下記のページよりお願いしま
す。
<https://www.rite.or.jp/contact/>

◇このメールマガジン配信サービスは無料です。
◇RITEからのお知らせを不定期に配信する場合がありますので、予めご了承下さい。
また、都合により配信を休止することがあります。

公益財団法人地球環境産業技術研究機構
〒619-0292 京都府木津川市木津川台9-2

Copyright (C) Research Institute of Innovative Technology for the Earth
All rights reserved.